

# 地震防災フロンティア研究センター

地震防災フロンティア研究センターは、「都市を地震災害から守る方法」を研究することを目的としています。このセンターは、1998年1月に兵庫県三木市に開設されました。当初は理化学研究所の研究システムの一環として設立されましたが、200年4月、防災科学技術研究所の一組織として新たなスタートを切りました。

1995年に発生した阪神・淡路大震災の衝撃は、「日本の地震防災対策は世界一である」と考えていた多くの人々の認識に疑問符をつきつけるものでした。それはまた、主として工学的な耐震技術に頼っていた地震防災体制を、物理的課題・社会的課題・情動的課題を総合的に解決する仕組みに構築し直すことが急務であることを示したと言えます。本センターは、このような総合的視野を持って防災研究を進める場

です。

地震防災フロンティア研究センターの中期目標は、

- (1)地震災害過程の総合シミュレーションに関する研究
- (2)地震時危機管理のための情報システムに関する研究
- (3)都市構造物の地震時破壊機構と都市の脆弱性評価に関する研究（物理的課題）
- (4)地震防災方策に関する研究

の4項目を柱としています。これらの研究を、災害過程シミュレーションチーム、災害情報システムチーム、破壊・脆弱性評価チームの3チーム、および「アジア・太平洋地域の地震・津波災害軽減のための国際共同研究グループ」を核として進めています。

（センター長 亀田弘行）



地震防災フロンティア研究センター